

# 自然環境保護ファンド

## <愛称：尾瀬紀行>

追加型投信／内外／資産複合

### 受益者の皆さまへ

毎々格別のお引立てに預かり厚くお礼申し上げます。

さて、「自然環境保護ファンド」は、2018年11月5日に第74期の決算を行いました。

当ファンドは、マザーファンドへの投資を通じて、実質的にわが国の上場株式および高格付資源国の公社債へ投資し、安定的な収益の確保と信託財産の着実な成長を目標として運用を行います。

当作成対象期間につきましても、これに沿った運用を行いました。ここに、運用経過等をご報告申し上げます。

今後とも一層のご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

作成対象期間 2018年5月8日～2018年11月5日

第72期	決算日：2018年7月5日	
第73期	決算日：2018年9月5日	
第74期	決算日：2018年11月5日	
第74期末 (2018年11月5日)	基準価額	9,192円
	純資産総額	1,897百万円
第72期～ 第74期	騰落率	△3.1%
	分配金合計	120円

(注1) 騰落率は分配金再投資基準価額の騰落率を表示しています。  
(注2) △(白三角)はマイナスを意味しています(以下同じ)。

当ファンドは投資信託約款において、運用報告書(全体版)を電磁的方法によりご提供する旨を定めております。運用報告書(全体版)は、下記のホームページにアクセスし、「基準価額一覧」等から当ファンドの名称を選択いただき、ファンドの詳細ページから閲覧、ダウンロードすることができます。また、運用報告書(全体版)は受益者のご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

### ■運用報告書に関するお問い合わせ先

コールセンター **0120-104-694**

(受付時間：営業日の午前9時から午後5時まで)

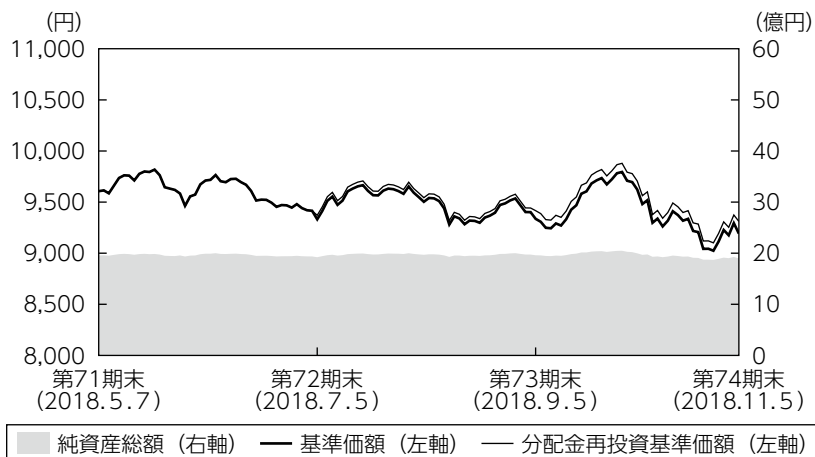
お客さまのお取引内容につきましては、購入された販売会社にお問い合わせください。

アセットマネジメントOne 株式会社

東京都千代田区丸の内1-8-2 <http://www.am-one.co.jp/>

## 運用経過の説明

### 基準価額等の推移



第72期首： 9,607円  
 第74期末： 9,192円  
 (既払分配金120円)  
 騰落率：  $\Delta 3.1\%$   
 (分配金再投資ベース)

- (注1) 分配金再投資基準価額は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものではありません。
- (注2) 分配金を再投資するかどうかについてはお客さまがご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。従って、お客さまの損益の状況を示すものではありません。
- (注3) 分配金再投資基準価額は、期首の基準価額に合わせて指数化しています。
- (注4) 当ファンドはベンチマークを定めておりません。

### 基準価額の主な変動要因

各国の国債の金利収入を主因にD I A M高格付インカム・オープン・マザーファンドが上昇したことがプラスに寄与した一方、作成期末にかけて景気や企業業績の先行きに対する楽観的な見方が後退したことや、米国長期金利の上昇を嫌気したこと等を背景に世界的に株式市場が下落したこと、中国景気の減速懸念が強まったこと等を背景に国内株式市場が下落し、D I A M S R I・マザーファンドが下落したことがマイナスに寄与し、基準価額は下落しました。

### ◆組入ファンドの当作成期間の騰落率

組入ファンド	騰落率
D I A M S R I・マザーファンド	$\Delta 5.9\%$
D I A M高格付インカム・オープン・マザーファンド	1.3%

## 1 万口当たりの費用明細

項目	第72期～第74期		項目の概要
	(2018年5月8日～2018年11月5日)		
	金額	比率	
(a) 信託報酬	69円	0.725%	(a) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率 期中の平均基準価額は9,503円です。 投信会社分は、信託財産の運用、運用報告書等各种書類の作成、基準価額の算出等の対価 販売会社分は、購入後の情報提供、交付運用報告書等各种書類の送付、口座内でのファンドの管理等の対価 受託銀行分は、運用財産の保管・管理、投信会社からの運用指図の実行等の対価
(投信会社)	(33)	(0.344)	
(販売会社)	(33)	(0.349)	
(受託銀行)	( 3)	(0.032)	
(b) 売買委託手数料	0	0.004	(b) 売買委託手数料＝期中の売買委託手数料÷期中の平均受益権口数 売買委託手数料は、組入有価証券等の売買の際に発生する手数料
(株式)	( 0)	(0.004)	
(c) その他費用	0	0.004	(c) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数 保管費用は、外国での資産の保管等に要する費用 監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査にかかる費用 その他は、信託事務の処理に要する諸費用
(保管費用)	( 0)	(0.002)	
(監査費用)	( 0)	(0.002)	
(その他)	( 0)	(0.000)	
合計	70	0.733	

(注1) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は追加・解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。なお、売買委託手数料およびその他費用は、このファンドが組入れているマザーファンドが支払った金額のうち、このファンドに対応するものを含みます。

(注2) 金額欄は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

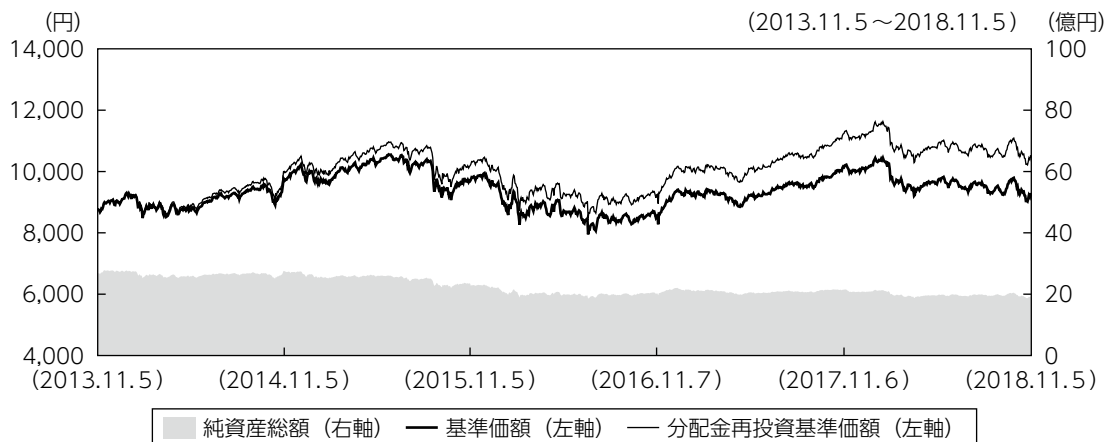
(注3) 比率欄は「1万口当たりのそれぞれの費用金額」を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

●当ファンドの販売会社および委託会社は、收受した運用管理費用の一部を（公財）尾瀬保護財団へ寄付を行い、尾瀬国立公園の自然環境保護に貢献いたします。

なお、当作成期に行った販売会社と委託会社の寄付金額の合計は4,101千円です。

	寄付金額
委託会社	毎年5月の決算期末を基準に、前1年間に收受した運用管理費用の中から、当該期間中の日々の純資産総額に年10,000分の10の率を乗じて得た金額。（ただし、将来的には状況によって寄付金額が変更になることがあります。）
販売会社	各販売会社が、毎年5月の決算期末を基準に、前1年間に收受した運用管理費用の中から、各販売会社の取扱い純資産額に応じて、当該期間中の日々の純資産額に年10,000分の10の率を乗じて得た金額。（ただし、将来的には状況によって寄付金額が変更になることがあります。）

## 最近5年間の基準価額等の推移



- (注1) 分配金再投資基準価額は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- (注2) 分配金を再投資するかどうかについてはお客さまがご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。従って、お客さまの損益の状況を示すものではありません。
- (注3) 分配金再投資基準価額は、2013年11月5日の基準価額に合わせて指数化しています。

		2013年11月5日 期首	2014年11月5日 決算日	2015年11月5日 決算日	2016年11月7日 決算日	2017年11月6日 決算日	2018年11月5日 決算日
基準価額 (分配落)	(円)	8,737	9,748	9,688	8,545	10,140	9,192
期間分配金合計 (税引前)	(円)	—	240	240	240	240	240
分配金再投資基準価額の騰落率	(%)	—	14.5	1.8	△9.3	21.7	△7.0
純資産総額	(百万円)	2,674	2,754	2,349	2,021	2,142	1,897

(注) 当ファンドのコンセプトに適した指数が存在しないため、ベンチマークおよび参考指標を定めておりません。

## 投資環境

国内株式市場は、作成期初から2018年9月上旬までは、米国など世界景気や国内企業の業績が堅調だった一方、米中貿易摩擦が激化したことからボックス圏での動きが続きました。9月中旬になると、外国人投資家が割安感のある日本株を買い戻す動きが活発化し、日経平均株価は年初来高値を更新しました。10月に入ると、米国長期金利の上昇や中国景気の減速感の強まりから反落し、月末にかけて調整色が強まりました。

外国債券市場は、底堅いファンダメンタルズ（経済の基礎的条件）を受けて、米国が漸進的な利上げを継続するとの思惑から米国の国債利回りが上昇（価格が下落）する中、カナダやノルウェーの国債利回りは上昇しました。一方で、米中貿易戦争への懸念の高まりに影響を受けやすいオーストラリアやニュージーランドの国債利回りは、概ね低下（価格は上昇）しました。

為替市場はまちまちの動きとなりました。ドル/円相場は、米国の経済指標が良好だったことや、それに伴い米長期金利が上昇し、日米金利差が拡大したこと等を背景に円安ドル高となりました。また、D I A M 高格付インカム・オープン・マザーファンドの組入対象通貨においては、長期金利が上昇し内外金利差が拡大したカナダドルに対して円安となった一方、貿易摩擦の悪影響が懸念された豪ドルに対しては円高になるなど、まちまちの動きとなりました。

## ポートフォリオについて

### ●当ファンド

D I A M S R I ・マザーファンド50%、D I A M 高格付インカム・オープン・マザーファンド50%を基本配分比率とし、各マザーファンドの組入比率が基本配分比率に近づくよう運用を行いました。

### ●D I A M S R I ・マザーファンド

C S R（企業の社会責任）評価の高い企業のうち、足元の業績が堅調で市場予想を上回ると予想される銘柄、E V（電気自動車）・I o T（モノのインターネット）向けのビジネス拡大などで中期成長性が高い銘柄、今・来期予想P E R（株価収益率）など株価バリュエーションに割安感がある銘柄、株主還元積極的に銘柄などを選別してポートフォリオを構築しました。この結果、T O P I X（東証株価指数）と比較すると、医薬品、電気機器などを多めの保有としました。

### ●D I A M 高格付インカム・オープン・マザーファンド

基本国別投資比率（カナダ40%、オーストラリア40%、ノルウェー10%、ニュージーランド10%）を概ね維持しました。基本国別投資比率は、2018年6月末から、利回り向上などを目的として、オーストラリアの配分を35%から40%に引き上げ、カナダの配分を45%から40%に引き下げました。デュレーション<sup>\*</sup>は、国債利回りが相応な水準まで上昇したと判断したことから、やや長期化しました。

<sup>\*</sup>金利変動に対する債券価格の変動性。なお、平均残存年数は組入債券の各データを純資産総額に対する割合で加重平均して算出しています。

## 分配金

当作成期の収益分配金につきましては運用実績等を勘案し、以下の表の通りとさせていただきます。なお、収益分配金に充てなかった利益は信託財産内に留保し、運用の基本方針に基づいて運用いたします。

### ■分配原資の内訳（1万口当たり）

項目	第72期	第73期	第74期
	2018年5月8日 ～2018年7月5日	2018年7月6日 ～2018年9月5日	2018年9月6日 ～2018年11月5日
当期分配金（税引前）	40円	40円	40円
対基準価額比率	0.43%	0.43%	0.43%
当期の収益	12円	20円	40円
当期の収益以外	27円	19円	-円
翌期繰越分配対象額	1,846円	1,827円	1,829円

(注1) 「当期の収益」および「当期の収益以外」は、小数点以下切捨てで算出しているためこれらを合計した額と「当期分配金（税引前）」の額が一致しない場合があります。

(注2) 当期分配金の「対基準価額比率」は「当期分配金（税引前）」の期末基準価額（分配金込み）に対する比率で、ファンドの収益率とは異なります。また、小数点第3位を四捨五入しています。

(注3) 「当期の収益」は「経費控除後の配当等収益」および「経費控除後・繰越欠損補填後の売買益（含、評価益）」から分配に充当した金額です。また、「当期の収益以外」は「分配準備積立金」および「収益調整金」から分配に充当した金額です。

## 今後の運用方針

### ●当ファンド

引き続き、基本配分比率を維持するよう、各マザーファンドへの投資を実施します。マザーファンドの組入比率につきましては、高位を維持します。

### ●D I A M S R I ・マザーファンド

当面の国内株式市場は、2018年11月末のG20（20カ国・地域）首脳会合で実現すると予想される米中トップ会談において、米中間で貿易摩擦の融和が見られるか否かを注目しています。このため、その思惑や結果によって価格変動の激しい展開が見込まれます。ただし、世界景気の底堅さや日本株のバリュエーションの割安感が下支え要因となり、徐々に下値を固める展開になると予想します。組入銘柄は、C S R評価の高い企業のうち、足元の業績が堅調で市場予想を上回ると予想される銘柄、来期の業績伸び率が高いと予想される銘柄、E V向けなど中期成長性の高い製品群を有する銘柄、来期P E Rなど株価バリュエーションに割安感がある銘柄、キャッシュフローの状況などから株主還元への期待度が高いと推測される銘柄などに注目して投資する方針です。

### ●D I A M高格付インカム・オープン・マザーファンド

比較的中國との貿易関係の深い投資対象国の資産市場は、先行き不透明な状況が続くと思われませんが、中國による景気対策などが下支え要因となるとみており、一進一退の推移になると予想します。基本国別投資比率に沿った比率を維持し、ポートフォリオの平均残存期間は、国債利回りの上昇余地を見極めつつ、柔軟に運営する方針です。

## お知らせ

■信用リスクを適正に管理する方法を規定する所要の約款変更を行いました。

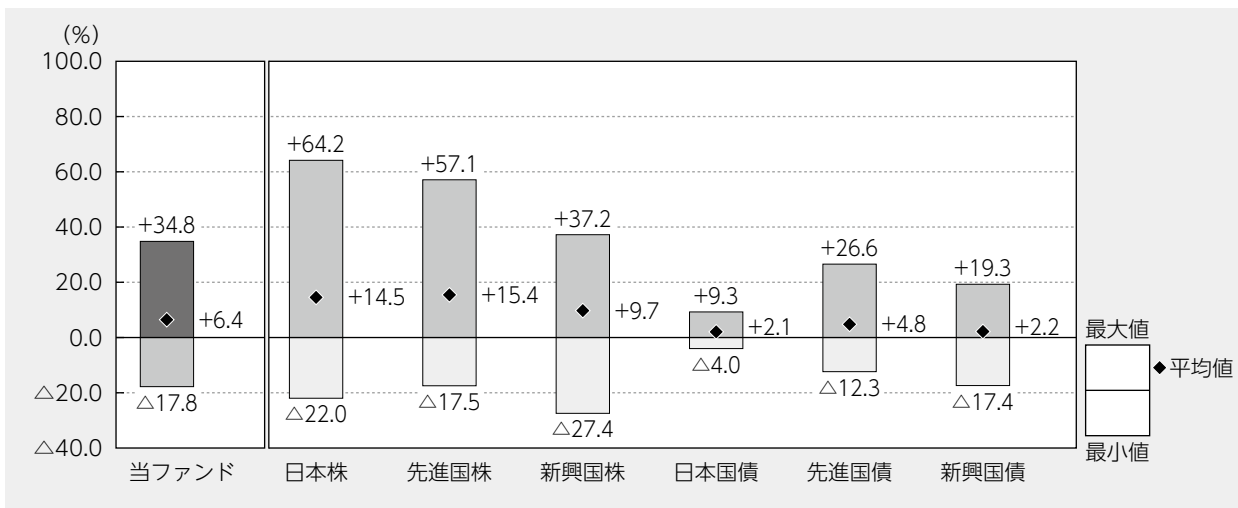
(2018年8月8日)

## 当ファンドの概要

商品分類	追加型投信／内外／資産複合	
信託期間	2006年5月26日から無期限です。	
運用方針	安定的な収益の確保と信託財産の着実な成長を目標として運用を行います。	
主要投資対象	自然環境保護ファンド	DIAM SRI・マザーファンド受益証券およびDIAM高格付インカム・オープン・マザーファンド受益証券を主要投資対象とします。
	DIAM SRI・マザーファンド	わが国の上場株式を主要投資対象とします。
	DIAM高格付インカム・オープン・マザーファンド	高格付資源国の公社債を主要投資対象とします。
運用方法	自然環境保護ファンド	各マザーファンド受益証券への投資に当たっては、委託会社が独自に定める基本配分比率に従い配分するものとします。なお、時価の変動等により各マザーファンドの時価構成比が基本配分比率から乖離した場合には、定期的に基本配分比率に修正するものとします。 実質組入外貨建資産については、原則として対円での為替ヘッジは行いません。
	DIAM SRI・マザーファンド	TOPIX（東証株価指数）をベンチマークとして中長期的に同指数を上回る投資成果をめざします。 組入れ銘柄選定に当たっては、CSR（企業の社会責任）への取り組みに着目して、持続的な成長が期待できる銘柄に投資します。
	DIAM高格付インカム・オープン・マザーファンド	主に高格付資源国の公社債に投資し、安定した収益の確保と信託財産の中長期的な成長をめざします。 投資対象となる国は、委託会社が定義した「資源国」の中から、信用力・金利・為替見通し等を判断材料とし、選定します。 外貨建資産については、原則として対円での為替ヘッジは行いません。
分配方針	毎決算時（原則として、奇数月の各5日。休業日の場合は翌営業日。）に、経費控除後の利子、配当等収益（繰越分およびマザーファンドの信託財産に属する利子、配当等収益のうち、信託財産に属するとみなした額（以下、「みなし配当等収益」といいます。）を含みます。）および売買益（評価益を含み、みなし配当等収益を控除して得た額）等の中から、基準価額水準、市況動向等を勘案して、分配金額を決定します。ただし、分配対象額が少額の場合は分配を行わないことがあります。	



## 代表的な資産クラスとの騰落率の比較



2013年11月～2018年10月

(注1) すべての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

(注2) 上記期間の各月末における直近1年間の騰落率の平均値・最大値・最小値を、ファンドおよび代表的な資産クラスについて表示し、ファンドと代表的な資産クラスを定量的に比較できるように作成したものです。なお、上記の騰落率は決算日に対応した数値とは異なります。

(注3) 当ファンドの騰落率は、税引前の分配金を再投資したものと計算しています。

### \*各資産クラスの指数

日本株…東証株価指数 (TOPIX) (配当込み)

先進国株…MSCIコクサイ・インデックス (配当込み、円ベース)

新興国株…MSCIエマージング・マーケット・インデックス (配当込み、円ベース)

日本国債…NOMURA-BPI国債

先進国債…FTSE世界国債インデックス (除く日本、円ベース)

新興国債…JPモルガンGBI-EMグローバル・ディバースィファイド (円ベース)

(注) 海外の指数は為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しております。

※各指数については後掲の「代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について」をご参照ください。

## 当ファンドのデータ

### 当ファンドの組入資産の内容（2018年11月5日現在）

#### ◆組入ファンド等

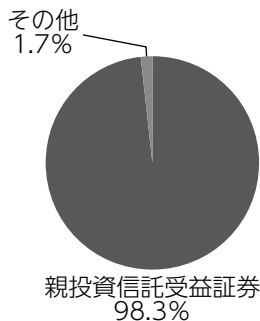
（組入ファンド数：2ファンド）

	第74期末
	2018年11月5日
D I A M 高格付インカム・オープン・マザーファンド	49.5%
D I A M S R I ・マザーファンド	48.8
その他	1.7

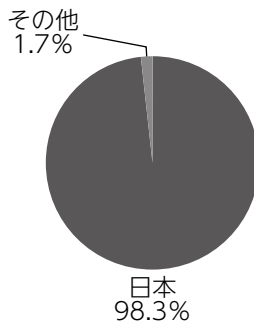
（注1）比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

（注2）現金等はその他として表示しています。なお、その他は未払金等の発生によりマイナスになることがあります。

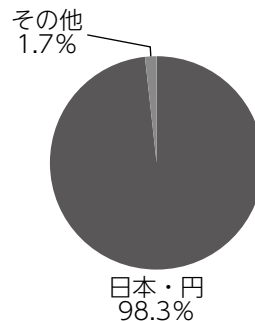
#### ◆資産別配分



#### ◆国別配分



#### ◆通貨別配分



（注1）比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

（注2）現金等はその他として表示しています。なお、その他は未払金等の発生によりマイナスになることがあります。

### 純資産等

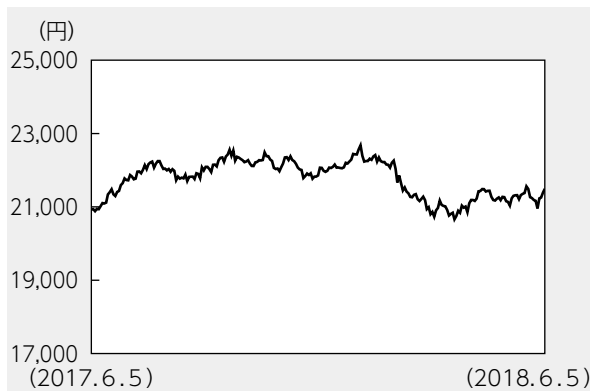
項目	第72期末	第73期末	第74期末
	2018年7月5日	2018年9月5日	2018年11月5日
純資産総額	1,921,532,382円	1,959,506,404円	1,897,674,274円
受益権総口数	2,059,277,881口	2,098,917,702口	2,064,556,618口
1万口当たり基準価額	9,331円	9,336円	9,192円

（注）当作成期間（第72期～第74期）中における追加設定元本額は156,504,953円、同解約元本額は125,991,339円です。

## 組入ファンドの概要

[D I AM高格付インカム・オープン・マザーファンド] (計算期間 2017年6月6日～2018年6月5日)

### ◆基準価額の推移



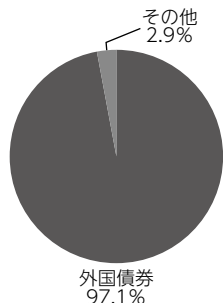
### ◆組入上位10銘柄

銘柄名	通貨	比率
AUSTRALIAN 3.25 04/21/29	オーストラリア・ドル	5.8%
NEW ZEALAND 5.5 04/15/23	ニュージーランド・ドル	4.3
CANHOU 4.1 12/15/18	カナダ・ドル	3.3
CANADA 5.0 06/01/37	カナダ・ドル	3.3
BRITISH COLUMBIA PROVINCE 3.7 12/18/20	カナダ・ドル	3.0
BRITISH COLUMBIA PROVINCE 4.95 06/18/40	カナダ・ドル	2.7
AUSTRALIAN 3.75 04/21/37	オーストラリア・ドル	2.5
AUSTRALIAN 5.5 04/21/23	オーストラリア・ドル	2.5
EUROFIMA 5.5 06/30/20	オーストラリア・ドル	2.4
NORWAY 2.0 05/24/23	ノルウェー・クローネ	2.3
組入銘柄数	87銘柄	

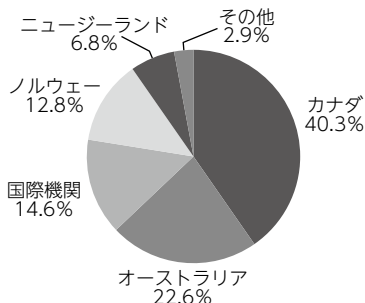
### ◆1万口当たりの費用明細

項目	当期	
	金額	比率
(a) その他費用 (保管費用)	2円	0.009%
(その他)	(2)	(0.009)
	(0)	(0.000)
合計	2	0.009

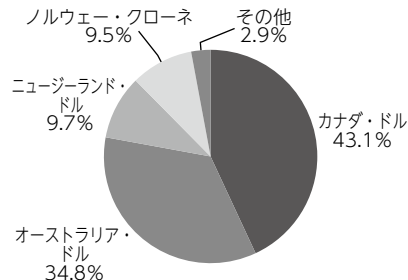
### ◆資産別配分



### ◆国別配分



### ◆通貨別配分



(注1) 基準価額の推移、1万口当たりの費用明細は組入ファンドの直近の計算期間のものであります。

(注2) 1万口当たりの費用明細の金額欄は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。比率欄は「1万口当たりのそれぞれの費用金額」を期中の平均基準価額(21,752円)で除して100を乗じたものです。なお、費用項目の概要及び注記については2ページ(1万口当たりの費用明細)をご参照ください。

(注3) 組入上位銘柄、資産別配分・国別配分・通貨別配分のデータは組入ファンドの直近の決算日現在のものです。

(注4) 比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

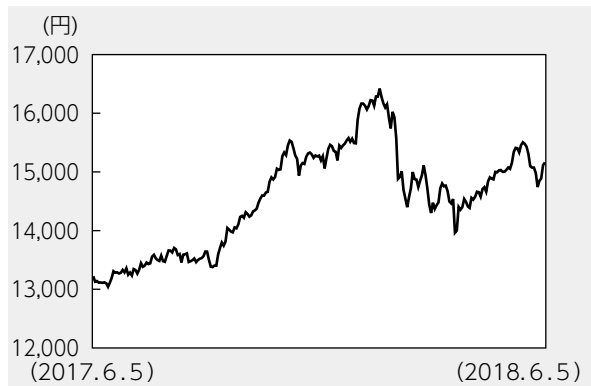
(注5) 現金等はその他として表示しています。なお、その他は未払金等の発生によりマイナスになることがあります。

(注6) 国別配分は、発行国(地域)を表示しています。また、国際機関の発行する債券については「国際機関」と表示しています。

(注7) 計算期間中の運用経過や組入全銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書(全体版)に記載されています。

[DIAM SRI・マザーファンド] (計算期間 2017年6月6日～2018年6月5日)

◆基準価額の推移



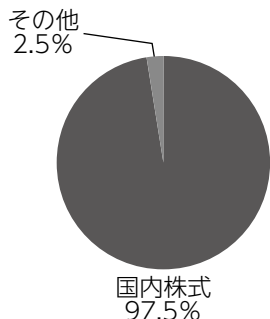
◆組入上位10銘柄

銘柄名	通貨	比率
三菱UFJフィナンシャル・グループ	日本・円	3.8%
トヨタ自動車	日本・円	3.0
三井住友フィナンシャルグループ	日本・円	2.7
エーザイ	日本・円	2.5
東日本旅客鉄道	日本・円	2.3
日本電信電話	日本・円	2.3
日本電産	日本・円	2.2
キリンホールディングス	日本・円	2.2
第一三共	日本・円	2.0
ソニー	日本・円	2.0
組入銘柄数	77銘柄	

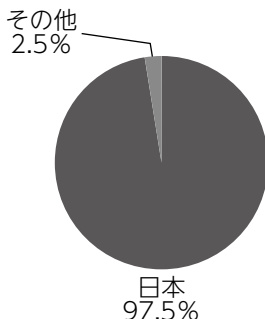
◆1万口当たりの費用明細

項目	当期	
	金額	比率
(a) 売買委託手数料	9円	0.064%
(株式)	(9)	(0.064)
(先物・オプション)	(0)	(0.000)
合計	9	0.064

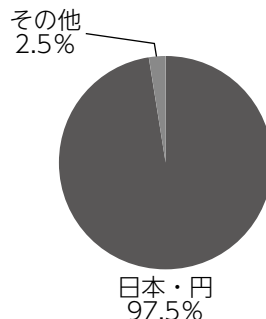
◆資産別配分



◆国別配分



◆通貨別配分



(注1) 基準価額の推移、1万口当たりの費用明細は組入ファンドの直近の計算期間のものであります。

(注2) 1万口当たりの費用明細の金額欄は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。比率欄は「1万口当たりのそれぞれの費用金額」を期中の平均基準価額(14,565円)で除して100を乗じたものです。なお、費用項目の概要及び注記については2ページ(1万口当たりの費用明細)をご参照ください。

(注3) 組入上位銘柄、資産別配分・国別配分・通貨別配分のデータは組入ファンドの直近の決算日現在のものです。

(注4) 比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

(注5) 現金等はその他として表示しています。なお、その他は未払金等の発生によりマイナスになることがあります。

(注6) 計算期間中の運用経過や組入全銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書(全体版)に記載されています。

## <代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について>

- 「東証株価指数（TOPIX）」は、東京証券取引所第一部に上場されているすべての株式の時価総額を指数化したものです。同指数は、株式会社東京証券取引所（株東京証券取引所）の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用など同指数に関するすべての権利は、(株)東京証券取引所が有しています。
- 「MSCIコクサイ・インデックス」は、MSCI Inc. が開発した株価指数で、日本を除く世界の主要先進国の株価指数を、各国の株式時価総額をベースに合成したものです。同指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利はMSCI Inc. に帰属します。また、MSCI Inc. は同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。
- 「MSCIエマージング・マーケット・インデックス」は、MSCI Inc. が開発した株価指数で、新興国の株価指数を、各国の株式時価総額をベースに合成したものです。同指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利はMSCI Inc. に帰属します。また、MSCI Inc. は同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。
- 「NOMURA-BPI国債」は、野村證券株式会社が国内で発行された公募利付国債の市場全体の動向を表すために開発した投資収益指数です。同指数の知的財産権その他一切の権利は野村證券株式会社に帰属します。なお、野村證券株式会社は、同指数の正確性、完全性、信頼性、有用性を保証するものではなく、ファンドの運用成果等に関して一切責任を負いません。
- 「FTSE世界国債インデックス（除く日本）」は、FTSE Fixed Income LLCにより運営され、日本を除く世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した債券インデックスです。同指数はFTSE Fixed Income LLCの知的財産であり、指数に関するすべての権利はFTSE Fixed Income LLCが有しています。
- 「JPモルガンGBI-EMグローバル・ディバースファイド」は、J. P. モルガン・セキュリティーズ・エルエルシーが公表している新興国の現地通貨建ての国債で構成されている時価総額加重平均指数です。同指数に関する著作権等の知的財産その他一切の権利はJ. P. モルガン・セキュリティーズ・エルエルシーに帰属します。また、同社は同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。

(このページは白紙です)

(このページは白紙です)

